

# 綱分八幡宮放生会御神幸祭【つなわきはちまんぐうほうじょうえごじんこうさいいさい】



開催場所

飯塚市綱分  
綱分八幡宮

開催日

10月12日、10月13日

指定

隔年の10月13日に近い土・日曜日  
福岡県指定無形民俗文化財

## 【芸能の概要】

綱分八幡宮放生会御神幸祭は、14世紀半ばの北朝暦応年間（1338～1342）から続く神事といわれる。天正年間（1573～1592）に領主秋月種実が厳粛に祭りを執り行ったと伝えられる。ほぼ形を変えることなく現在に伝わり、御神幸のほか、神楽・太鼓打ち（稚児舞）・獅子舞・流鏝馬・子ども相撲が奉納される。綱分の獅子舞は、大分八幡宮の獅子舞（筑穂町）と共に嘉穂郡内で広く流布している。

## 【芸能の特徴】

綱分八幡宮放生会御神幸祭は、北朝暦応年間（1338～1341）以来の神事といわれている。1786（天明6）年の古文書には、天正（1573～1591）に御神幸があり、流鏝馬、獅子舞、相撲、神楽が奉納されていたことが記されている。また1894（明治27）年には雅楽係が結成され、御神幸に奉仕するようになった。現在の獅子舞は享保年間（1716～1735）に男山の石清水八幡宮より習得したものとされている。

神幸祭は1580年頃は領主の、江戸時代には黒田藩の庇護の元、盛んに執り行われていた。明治維新後は綱分の氏子が主体となり行われるようになった。神楽は神職の座によって演ぜられていたが、明治時代に廃れ、明治時代末期に氏子により神楽座が結成され復活した。また、現在舞われている神楽は戦前に出雲で学び、この地方に伝わっていた嘉穂神楽の修正を行なったものが基本となっている。流鏝馬は、戦後途絶えていた。昭和30年に1度行われたが、復活したのは昭和57年からである。

## 【使用する祭具・道具など】

楽は獅子楽と雅楽がある。獅子楽の笛は、廻り楽、獅子楽（4種類）、道楽（8種類）、雅楽は獅子舞（くるい獅子）で10種があり、馬場入り、神殿入りでは小太鼓、鐘と共に笛楽に合わせる。雅楽は祭典で奏され龍笛と箏箏で構成されている。御神幸の道中にはそれぞれ道楽を奏する。

### ・アクセス

西鉄バス綱分バス停下車徒歩2分

### ・周辺の観光

筑豊緑地公園、関の山登山道  
庄内町盆踊り・花火大会（8月）  
庄内町文化祭（11月）ふれあい祭庄内（11月）

### ・近くの特産品

庄内フキ、庄内なし、りんご、いちご

